

2008 年度 修士論文

高等学校における長距離歩行行事の意義と
運営上の問題点およびその対処方法

Significance and Management strategy of
long-distance walk event in high school

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科
スポーツ科学専攻 スポーツビジネス研究領域

5007A020-6

木内 虹平

Kinouchi、 Kouhei

研究指導教員： 中村 好男 教授

高等学校における長距離歩行行事の意義

と運営上の問題点およびその対処方法

スポーツビジネス研究領域

5007A020-6 木内 虹平

研究指導教員：中村 好男 教授

第1章 序論

学習指導要領(文部科学省、2003)によると、健康安全・体育的行事は「心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行うこと。」が目標として定められている。体育行事の中でも、歩くことが人の最も基本的な動作であることから、歩行行事は体育行事として重要な役割を果たすものと考えられる。また、「歩育」の観点からも、体育行事としての長距離歩行行事の重要性に言及することが出来る。

しかし、昨今の体育行事は、学校制度改革や周辺環境の変化により削減・縮小の傾向にあるが、高等学校での体育行事は、学習指導要領に記されているように様々な恩恵を得られるものであることから、今後も継続的に長距離歩行行事を実施していく必要があるだろう。

そこで、本研究では、現在の長距離歩行行事の実施状況を調査した(研究Ⅰ)。さらに、長距離歩行行事を実施している高等学校が行事にどのような魅力持ち、行事の問題点およびその対処方法を調査した(研究Ⅱ)。

第2章 研究Ⅰ

1. 目的

インターネットを利用して各高等学校のホームページを調査し、マラソン大会と比較検討から、

全国の高等学校における長距離歩行行事の実施状況を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

全国47都道府県の高等学校(5058校)を対象に、インターネットに掲載されている各高等学校の公式ホームページより調査した。本研究では5年制の高等専門学校、通信制高等学校、夜間の定時制高校は除外した。

調査内容は、長距離歩行もしくはマラソンの実施状況、創立年度、実施距離を調査した。

3. 結果

全国5058校の高等学校の実施状況は、長距離歩行446校(8.8%)、マラソン1287校(25.4%)、不記載3283校(64.9%)、不明42校(0.8%)であった(図1)。また、地域別において実施率差に差は見られず、創立年度とも関連が見られなかった。

実施距離については、長距離歩行の平均距離は男子28.9±15.8km、女子26.9±13.9km、マラソン大会は男子10.6±5.1km、女子7.3±4.9kmであった。

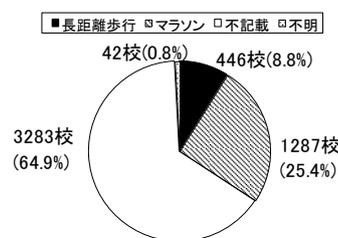


図1. 高等学校の実施状況

4. 考察

本研究の結果から、長距離歩行の実施率は、創立年度や地域差は見られなかった。都道府県ごと

にみても、40%以上の高等学校が実施している都道府県もあれば、1校も実施していない、またはマラソン大会を実施している高等学校があることが明らかとなった。

第3章 研究Ⅱ

1. 目的

現在、長距離歩行行事を継続的に実施している高等学校が、今後も継続的に実施できるような情報を提供するために、現在長距離歩行行事にどのような魅力持ち、現在までに起きた問題点にどのようなように対処してきたのかを調査することを目的とした。

2. 方法

研究Ⅰで明らかになった長距離歩行行事を実施している高等学校445校の中から、本調査への協力が同意が得られた214校(48.1%)を対象に質問紙調査を行い、回答を得られた117校(54.7%)を分析対象とした。質問紙は、長距離歩行行事担当者が回答するように依頼し、質問項目は、先行研究(下田、1999；池田ら、2007)と学習指導要領(文部科学省、2003)を基に作成した。

3. 結果

「長距離歩行行事から生徒が得られるもの、もしくは魅力」については、「心身の健全な発達を促す」が86校(73.5%)と最も回答を得られた(表1)。

また、「長距離歩行行事を運営していくにあたって、困難を生じる点」では、「行事を実施する上での安全面での交通整備が難しい」が69校(59.0%)で、最も回答数が多かった(表2)。この問題点に対する対処方法として、教職員や保護者、地域、警察などによる交通整理という方略がとられていることが自由記述より得られた。

4. 考察

行事自体の意義・魅力として、心身の健全な成長、友人とのコミュニケーション、達成感といった内容が挙げられていた。また、行事中の安全対策や事故防止のために、地域住民と協力して行事

を運営していることが示された。

表1.生徒が行事から得られるもの(N=117)の単純集計結果

	N(%)
心身の健全な発達を促す	86 (73.5)
活力のある生活を生み出す態度を育てる	55 (47.0)
運動から人間関係の構築を図れる	48 (41.0)
集団での団結力を身につけられる	42 (35.9)
運動に対する関心や意欲の向上につながる	28 (23.9)
生徒の体育授業の成績発表の場として活用できる	16 (13.7)
運動習慣が身につく	10 (8.5)
その他	21 (17.9)

表2.運営していくにあたって困難を生じる点(N=117)の単純集計結果

	N(%)
行事を実施する上での安全面での交通整備が難しい	69 (59.0)
行事実施中の事故	33 (28.2)
運営協力者の人数の少ない	30 (25.6)
生徒の行事に対する意欲が低下したこと	12 (10.3)
週5日制による体育行事削減への対応	10 (8.5)
他の体育行事との兼ね合い	6 (5.1)
地域住民の理解が足りない	4 (3.4)
その他	17 (14.5)

第4章 総合論議

本研究で得られた問題点における対処方法によって、現在長距離歩行行事を実施している高等学校が、今後も継続的な実施が出来る可能性がある。また、本研究で取り上げられなかった問題点に対しても、高等学校間で積極的な情報交換をしながら解決していくことが必要になるだろう。

今後、長距離歩行行事の継続的な実施をすることによって、高等学校における長距離歩行行事を通じた歩行教育の普及につながると考えられる。

文献

- 池田克紀・室屋隆吾・阿部博之・沼田晶弘(2007).
ウォーキング研究, 11, 101-106.
- 下田将美 (1999). 関東地区高等学校保健体育研究, 64-70.
- 文部科学省 (2003). 新学習指導要領 高等学校学習指導要領.

目 次

第1章	序論	1
1.	高等学校における体育行事の位置づけ	1
2.	体育行事としての長距離歩行行事	3
3.	長距離歩行行事の実践例—山梨県立甲府第一高等学校—	4
4.	高等学校における長距離歩行行事の実施継続に向けた課題	5
5.	本研究の構成と目的	6
第2章	研究Ⅰ：高等学校における長距離歩行行事の実施率調査	8
1.	目的	8
2.	方法	8
3.	結果	10
4.	考察	14
第3章	研究Ⅱ：長距離歩行行事の意義と運営における問題点とその対処方法の検討	17
1.	目的	17
2.	方法	17
3.	結果	20
4.	考察	24
第4章	総合論議	28
1.	本研究により得られた知見	28
2.	展望	30
文 献		33
謝 辞		36
資料		37

第1章 序論

1. 高等学校における体育行事の位置づけ

高等学校における体育教育は、保健体育授業と、特別活動の学校行事の1つとしての位置づけられている健康安全・体育的行事の2つの側面からとらえることができる。

高等学校で行われている保健体育授業は、「心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。」という目標を持って実施している。

高等学校の学校行事は、高等学校学習指導要領(文部科学省、2003)によると特別活動の中に含まれており、儀式的行事、学芸的行事、健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事の5つに分類されている(表1)。その中でも体育教育と関連が深いものが健康

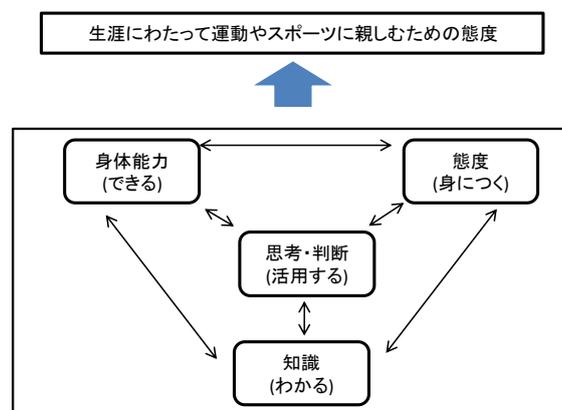
表 1. 高等学校の学校行事の種類とその内容

行事の種類	内容
儀式的行事	学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるような活動を行うこと。
学芸的行事	平素の学習活動の成果を総合的に生かし、その向上の意欲を一層高めるような活動を行うこと。
健康安全・体育的行事	心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵(かん)養、体力の向上などに資するような活動を行うこと。
旅行・集団宿泊的行事	平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと。
勤労生産・奉仕的行事	勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験が得られるようにするとともに、ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。

学習指導要領(文部科学省、2003)引用

安全・体育的行事である。学習指導要領(文部科学省、2003)によると、健康安全・体育的行事については「心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行うこと。」が目標として定められている。保健体育授業とは違い健康安全・体育的行事には、前述した目標に加え、学校行事の目標である、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属意識を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと、集団や社会の一員としてより良い生活を築こうとする自主性や、実践的な態度を育て人間としての在り方や生き方の自覚を深め、自己を生かす能力を養うという内容も含まれている。

我が国における高等学校の体育教育の恩恵を調査した先行研究では、体育教育には運動に親しむ態度を構築する要素(図1)も含まれており(高橋、2008)、体育教育の経験がその後の運動習慣の獲得に影響すること(金崎、2000)や、大学生活や大学卒業後における運動参加の促進要因の1つが高校時代の体育授業であること(藤田ら、2007)が報告されている。運動実施の有無が心身の健康に影響を及ぼすため、体育教育に求め



高橋(2008)引用

図1. 体育科の目標(内容)構造のイメージ

られているものは多いことも指摘されている(塩田、2006)。欧米の論文でも、学校体育は情緒的発達や社会的発達、認知的発達にも効果があると述べられている(Bailey、2006)。また、下田(1999)は、高等学校における体育行事の1つとして、持久走大会についてのアンケート調査を行い、生徒の持久力の低下や我慢のできない生徒の存在などの問題に対して、持久走大会は重要な役割を果たす行事であると報告している。

以上の先行研究から、体育教育を通じて心身の健全な発達や、集団での行動による体験、所属意識を養い、普段の体育の授業では得られない達成感や、準備する期間に得られる忍耐力などを体育行事や保健体育を通じて得られると考えられる。体育教育の一環として学校で行われている体育行事には、遠足・持久走大会・登山・運動会・ウォーキングといったものがあり、体育行事を通じて様々な恩恵を受けることができる。

2. 体育行事としての長距離歩行行事

体育行事の中でも、歩くことが人の最も基本的な動作であることから、歩行行事は体育行事として重要な役割を果たすものと考えられる。歩行は心肺機能を高めるのに有効な運動であり、歩行速度を変えることによって簡単に運動強度が変わる動作だといえる。さらに、長距離を歩くことによって、忍耐力のような精神力の向上にもつながるだろう。高等学校での長距離歩行行事について調査を行った池田ら(2007)の研究でも、生涯スポーツへのつながりから歩行行事の重要性を示している。

また、「歩育」の観点からも、体育行事としての長距離歩行行事の重要性に言及することが出来る。朝日新聞(2007年12月13日記事)において、教育再生の手段の1つとして、学校に歩行に関する教育を取り入れること(=「歩育」)の重要性が提案されている。歩育という言葉は「教

育目的を持って行われる歩行を手段とした教育活動」と定義されており、学校における歩行教育の歴史的背景(鈴木ら、1997；鈴木ら、1999；室星、2006)や、歩育の可能性(村山、2008)に関する研究が行われている。歩育によって、身体力、精神力、社会力を養うことが出来ると言われており(村山、2008)、歩育の具体的な実践の1つとして、長距離歩行行事に注目していくことが今後必要だと思われる。

高等学校で取り組んでいる長距離歩行行事の代表的な事例として「強歩大会」が挙げられる。大谷(1941)は「我々が歩くことによって脚力を高度に鍛錬し、あるいは筋力の一層の強化を企画し、あるいは持久力錬成の目的を達成しようとする場合には、相当長い距離に相当の速度を要求するいわゆる「強歩」の実施によって、この目的を達成することが出来ることになる(現代仮名使いに改訂)。」と述べている。なお、このような強歩大会やウォーキングといった学校行事をまとめて、本研究では「長距離歩行行事」と定義する。

3. 長距離歩行行事の実践例—山梨県立甲府第一高等学校—

山梨県の中で長距離歩行行事を最も古くから行っている山梨県立甲府第一高等学校では、強行遠足という名称で行事を実施している。1924年(大正13年)の11月3日に文部省から「明治節を国民体育日と定め、諸学校ともに記念行事を実施せよ」との通達により、甲府中学校(甲府第一高等学校)では、当時の学校長の江口俊博が「歩くにまさる身体の訓練はない」として強行遠足を開催した。ここから始まった伝統行事である強行遠足は平成20年で82回大会となっている。強行遠足の名前の由来は、自身の体力に応じて歩くことを強調するためであり、物事を乗り越えるために一切の妥協と怠慢を取り去り精根の限り歩くというこ

とを重視したためである。その歩行距離は、24時間かけて160km以上歩く時代も存在した(長谷川ら、1958)。また、長距離歩行行事を実施する理由としては、達成感・協働の喜び・体力の向上といった日常では得られない活動を得ることを目的として行っている。食料の供給・チェックポイントでの指示等などを通じて、地域住民や同窓生との協力体制がしかれており、高等学校の枠だけでなく、県全体の取り組みとして行われる学校行事となっている。さらに、甲府第一高等学校では北海道北見北斗高等学校との強行遠足交流を行っており、両校の高校遠足に数名が参加することで、他校との交流も図っている。

4. 高等学校における長距離歩行行事の実施継続に向けた課題

昨今の体育教育は、ゆとり教育や週5日制制度導入により削減されていく傾向(小出ら、2000)にあり、保健体育授業の削減は生徒の1日の活動量を減少させると報告されている(浜崎ら、2000)。また、伝統的に長距離歩行行事を実施している甲府第一高等学校においても、交通事情、特に2002年に起きた交通事故を理由に実施距離を100kmから50kmに短縮したという例もある(第80回強行遠足記念誌、2007)。学校制度の変革や交通事情の変化から、今日は長距離歩行行事の実施継続が支援される環境にあるとは言い難い状況となっている。

しかし、高等学校での体育行事は、身体健康と体力の育成、将来に向けての運動・スポーツ習慣の形成が重視されるため、積極的に取り組んでいく必要があるという報告(土生ら、2000)があることから、今後も継続的に長距離歩行行事を実施していく必要があるだろう。高等学校における長距離歩行行事の実施を保つためには、行事の実施を促す効果的な支援方策を構築することが重要であると考えられる。

長距離歩行に関する従来の研究として、至適処方確立のための生理学的研究(小野ら、1981；渡辺ら、1984)や、歩行環境の認知に関する研究(佐藤、2007)、高校生における足部障害の影響要因に関する調査研究(田神ら、2005)が挙げられる。しかし、長距離歩行行事の維持継続を目標として、高等学校の体育行事としての実施状況や、その運営方法に着目した研究はない。

高等学校における長距離歩行行事の実施状況を明確にした上で、今後も継続的に長距離歩行行事を実施していくための支援方策の1つとして、長距離歩行行事に対する魅力や、運営上の課題・問題点を共有することが挙げられる。現在でも長距離歩行行事を続けている高等学校では、行事に対して魅力を持っている反面、継続的に実施するためにいくつかの問題点があると予想される。事例として甲府第一高等学校でも取り上げたように、交通事情や交通事故のように行事实施が困難になる問題点に対して、対処方法を示すことが求められる。現在でも長距離歩行行事を続けている高等学校では、行事に対して魅力を持っており、継続的に実施するためにいくつかの問題点を解決して継続的に実施していると考えられる。

5. 本研究の構成と目的

本研究は、現在の長距離歩行行事の実施状況を調査し、さらに今後も継続的に長距離歩行行事が実施できるような環境を作る為に、長距離歩行行事を実施している高等学校が行事にどのような魅力持ち、現在までに起きた問題点に対しどのように対処してきたのかを調査することを目的とした。

具体的には、研究Ⅰにおいて、インターネット調査を用い、全国 5058

校の高等学校のホームページ上から調査を行い、マラソン大会や 47 都道府県ごとの実施率の比較を行い、全国でどの程度、長距離歩行行事が実施されているかについて検討した。

次に、研究Ⅱでは、研究Ⅰで明らかとなった長距離歩行行事を実施している高等学校に対し、長距離歩行行事の魅力と問題点・対処方法を質問紙調査で検討した。また、マラソン大会ではなく長距離歩行行事を実施している理由や、縮小や廃止の予定があるかどうかについても調査した。

第2章 研究 I : 高等学校における長距離歩行行事の実施率調査

1. 目的

従来の研究では、長距離歩行行事の実施状況について調査した研究はなく現状を把握する第一歩として、どの程度全国で実施しているのかを調査する必要がある。そこで、研究 I では、インターネットを利用して各高等学校のホームページを調査し、マラソン大会との比較検討から、全国の高等学校における長距離歩行行事の実施状況を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

2-1. 調査対象

全国 47 都道府県の高等学校（5058 校）を対象に、インターネットに掲載されている各高等学校の公式ホームページより調査した。本研究では 5 年制の高等専門学校、通信制高等学校、夜間の定時制高校は除外した。調査期間は 2007 年 4 月 3 日から 2007 年 7 月 21 日であった。

2-2. 手続き・測定データ

インターネットサイト「まなびどっこむ (<http://www.man-abi.com/>) 」と「ウィキペディア (<http://ja.wikipedia.org/wiki/>) 」から、各都道府県の高等学校公式ホームページのデータを抽出した。本研究において高等学校の公式ホームページから調査に使用したデータは、ホームページ上の「沿革」から創立年度を抽出した。また、ホームページ上の「年間行事予定」もしくは「学校行事」から長距離歩行行事もしくはマラソン大会を実施してい

るか、実施距離を抽出した（図2）。長距離歩行とマラソンの両方が行われている場合には、長距離歩行を優先させた。

2-3. データ処理

本研究で用いたデータの群分けは表2の通りである。なお、本研究で検討した内容は、個人が長い距離をゴールに向かって進んでいく行事を調査するものであったため、高等学校で行われている駅伝大会は本研究から除外した。47都道府県でどの程度の高等学校が長距離歩行を実施しているかを検討していくために各群の割合を検討した。また創立年度、

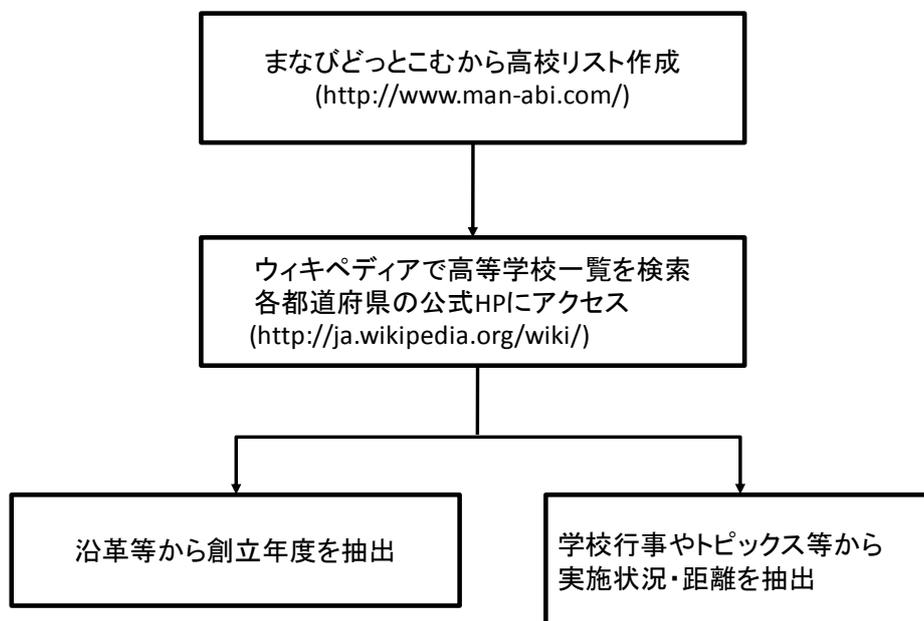


図2. データ入力の手順

表2. データの分類

分類名	定義
長距離歩行	高等学校の公式ホームページ上に強歩もしくはウォーキングの行事が記載されていた高校
マラソン	高等学校の公式ホームページ上にマラソンもしくは走る関係の行事が記載されていた高校(強歩とマラソンが重複した場合、強歩を優先させた)
不記載	高等学校の公式ホームページ上に強歩もしくはマラソンの行事が記載されていなかった高校
不明	公式ホームページが見つからなかった高校

都道府県別・地方別に実施状況を算出しその内容についても検討した。

実施距離は長距離歩行が 20 km 以下、21-30 km、31-40 km、41 km 以上の 4 区分で、マラソンは 10 km 以下、11-20 km、21 km 以上の 3 区分とした。

創立年度は 1925 年以前、1926-1945 年、1946-1965 年、1966-1985 年、1986 年以降の 5 つに区分にして長距離歩行行事、マラソン、不記載の有効データである 4848 校で検討した。各年代でパーセント値を出した。その後、長距離歩行行事とマラソンの実施状況と学校創立年度との間に関連があるかを見るために χ^2 検定を行った。

3. 結果

全国 5058 校の高等学校の実施状況は、長距離歩行 446 校 (8.8%)、マラソン 1287 校 (25.4%)、不記載 3283 校 (64.9%)、不明 42 校 (0.8%) であった (図 3)。また、都道府県別の実施状況の割合を出した (表 3)。長距離歩行が高等学校で多く実施されている都道府県の上位 5 都道府県

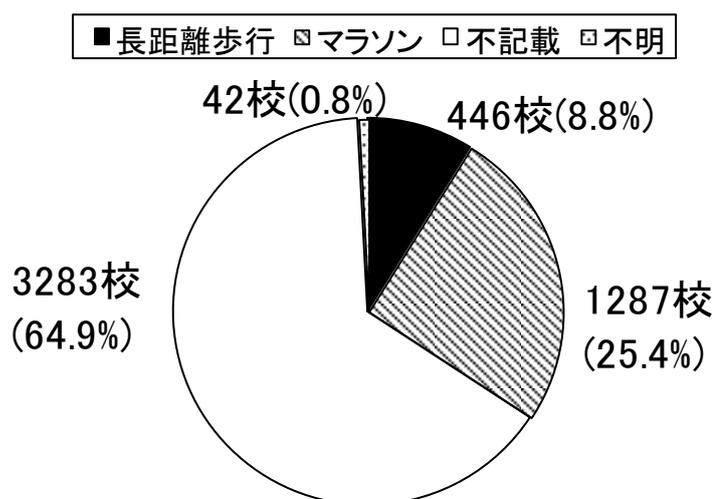


図 3. 全国の実施状況

表3. 都道府県別・地方別の実施状況

	長距離歩行 校数(%)	マラソン 校数(%)	不記載 校数(%)	不明 校数(%)
北海道	43(13.4)	58(18.1)	215(67.0)	5(1.6)
青森県	7(8.1)	8(9.3)	69(80.2)	2(2.3)
岩手県	0(0)	4(4.5)	85(95.5)	0(0)
東北地方 秋田県	17(26.6)	0(0)	46(71.9)	1(1.6)
宮城県	9(8.5)	20(18.9)	77(72.6)	0(0)
山形県	2(3.0)	14(21.2)	50(75.8)	0(0)
福島県	12(11.0)	24(22.0)	72(66.1)	1(0.9)
合計	47(9.0)	70(13.4)	399(76.6)	5(1.0)
茨城県	13(9.8)	33(24.8)	86(64.7)	1(0.8)
栃木県	6(7.6)	32(40.5)	41(51.9)	0(0)
群馬県	8(9.1)	42(47.7)	37(42.1)	1(1.1)
関東地方 埼玉県	34(16.4)	103(49.8)	70(33.8)	0(0)
千葉県	13(6.6)	75(38.3)	107(54.6)	1(0.5)
東京都	14(3.6)	110(28.4)	255(65.7)	9(2.3)
神奈川県	5(2.3)	52(23.9)	161(73.9)	0(0)
合計	93(7.1)	447(34.2)	757(57.8)	12(0.9)
山梨県	19(42.2)	0(0)	24(53.3)	2(4.4)
新潟県	1(1.0)	25(25.3)	73(73.7)	0(0)
長野県	37(34.3)	11(10.2)	60(55.6)	0(0)
中部地方 富山県	1(1.8)	7(12.7)	47(85.5)	0(0)
石川県	8(13.8)	11(19.0)	37(63.8)	2(3.5)
福井県	7(18.9)	7(18.9)	23(62.2)	0(0)
岐阜県	9(11.1)	7(8.6)	64(79.0)	1(1.2)
静岡県	7(4.8)	71(48.6)	65(44.5)	3(2.1)
愛知県	6(3.0)	14(6.9)	182(89.7)	1(0.5)
合計	95(11.4)	153(18.4)	575(69.1)	9(1.1)
三重県	1(1.2)	29(35.8)	51(63.0)	0(0)
滋賀県	2(3.6)	0(0)	53(96.4)	0(0)
京都府	0(0)	25(25.3)	73(73.7)	1(1.0)
近畿地方 大阪府	8(3.0)	52(19.8)	203(77.2)	0(0)
兵庫県	5(2.4)	46(22.4)	154(75.1)	0(0)
奈良県	5(9.1)	13(23.6)	37(67.3)	0(0)
和歌山県	8(16.3)	21(42.9)	19(38.8)	1(2.0)
合計	29(3.6)	186(23.1)	590(73.1)	2(0.3)
鳥取県	8(24.2)	1(3.0)	24(72.7)	0(0)
島根県	2(3.9)	19(36.5)	30(57.7)	1(1.9)
中国地方 岡山県	12(13.0)	9(9.8)	71(77.2)	0(0)
広島県	4(2.9)	61(44.2)	72(52.2)	1(0.7)
山口県	18(18.6)	35(36.1)	43(44.3)	1(1.0)
合計	44(10.7)	125(30.3)	241(58.4)	3(0.7)
徳島県	0(0)	2(4.6)	41(93.2)	1(2.3)
香川県	2(4.6)	8(18.2)	34(77.3)	0(0)
四国地方 愛媛県	1(1.4)	33(47.1)	36(51.4)	0(0)
高知県	5(10.2)	15(30.6)	29(59.2)	0(0)
合計	8(3.9)	58(28.0)	140(67.6)	1(0.5)
福岡県	13(8.7)	38(25.5)	98(65.8)	0(0)
佐賀県	3(6.5)	16(34.8)	27(58.7)	0(0)
長崎県	15(17.4)	38(44.2)	32(37.2)	1(1.2)
九州地方 熊本県	13(14.4)	37(41.1)	37(41.1)	3(3.3)
大分県	23(35.4)	3(4.6)	38(58.5)	1(1.5)
宮崎県	4(7.4)	12(22.2)	38(70.4)	0(0)
鹿児島県	15(16.7)	19(21.1)	56(62.2)	0(0)
合計	86(14.8)	163(28.1)	326(56.2)	5(0.9)
沖縄県	1(1.5)	27(39.7)	39(57.4)	1(1.5)

は、山梨県 42.2%、大分県 35.4%、長野県 34.3%、秋田県 26.6%、鳥取県 24.2%であった。一方、岩手県・京都府・徳島県においては長距離歩行を実施している高等学校がなかった。また、マラソンが多く実施されていた上位5都道府県は、埼玉県 49.8%、静岡県 48.6%、群馬県 47.7%、愛媛県 47.1%、広島県 44.2%であった。一方、秋田県・山梨県・滋賀県においてはマラソンを実施している高等学校がなかった。

実施率を地方別に見てみると、長距離歩行行事の実施率は北海道地方 43校 (13.4%)、東北地方 47校 (9.0%)、関東地方 93校 (7.1%)、中部地方 95校 (11.4%)、近畿地方 29校 (3.6%)、中国地方 44校 (10.7%)、四国地方 8校 (0.4%)、九州地方 86校 (14.8%)、沖縄地方 1校 (1.5%)であった。また、マラソン大会の実施率は北海道地方 58校 (18.1%)、東北地方 70校 (13.4%)、関東地方 447校 (34.2%)、中部地方 153校 (18.4%)、近畿地方 186校 (23.1%)、中国地方 125校 (30.3%)、四国地方 58校 (28.0%)、九州地方 163校 (28.1%)、沖縄地方 27校 (39.7%)であった。

実施距離について男女別に長距離歩行行事とマラソン大会で比較検討した。ホームページ上に記載があった実施距離における有効データは、長距離歩行が男子 167校 (37.4%)、女子 152校 (34.1%)であった。また、マラソンの有効データ数は男子 280校 (21.8%)、女子 277校 (21.5%)であった。長距離歩行行事の平均距離は男子 28.9 ± 15.8 km、女子 26.9 ± 13.9 kmであった (図4)。また、マラソン大会は男子 10.6 ± 5.1 km、女子 7.3 ± 4.9 kmであった (図5)。長距離歩行行事で最も長い距離を実施している高等学校は、北海道県立湧別高等学校 (男女共)・群馬県私立白根開善高等学校 (男女共)・大阪府私立清風高等学校 (男子) の 100 kmであった。また、マラソン大会は男女共に、最長が北海道県立北

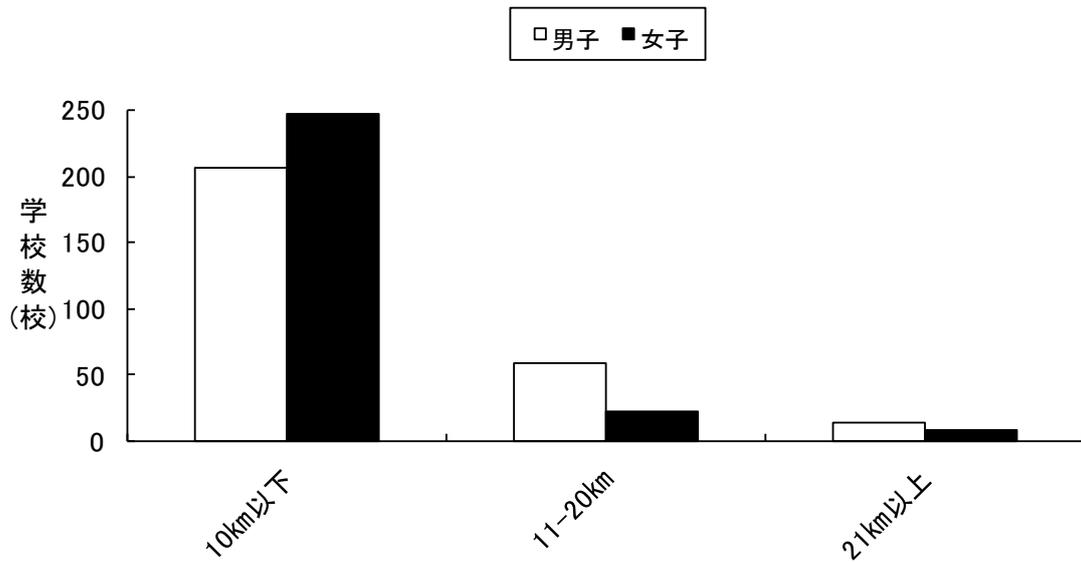


図 4. 長距離歩行の実施距離

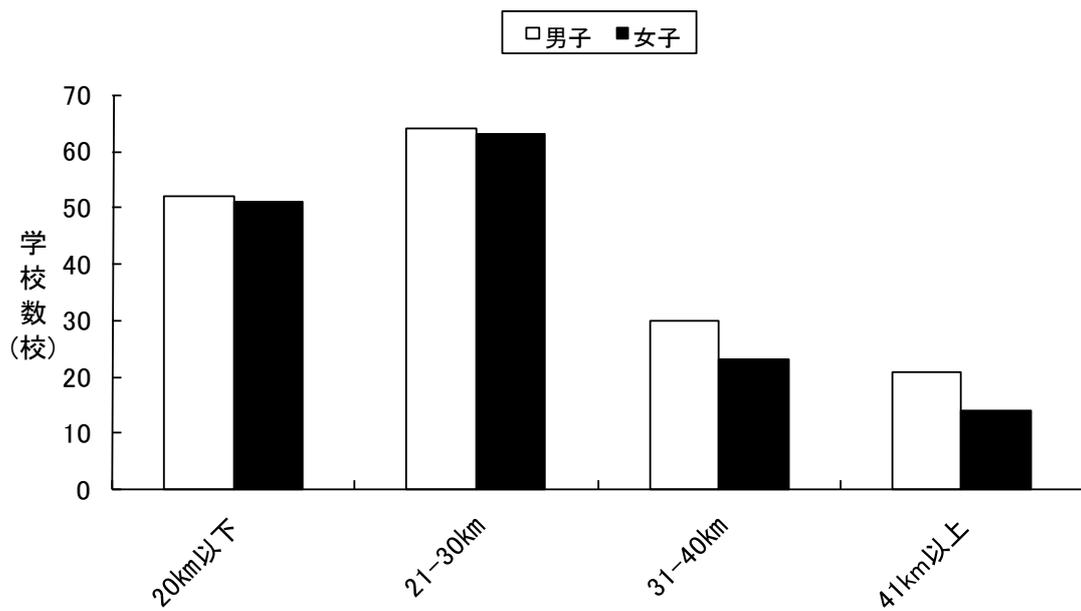


図 5. マラソンの実施距離

見緑陵高等学校の 42.195 kmであった。

創立年度について年代別の実施状況を検討したところ図 6 のようになった。創立年度の有効データ数は、長距離歩行 434 校 (97.3%)、マラソン 1237 校 (96.1%) であった。長距離歩行を実施している高等学校は

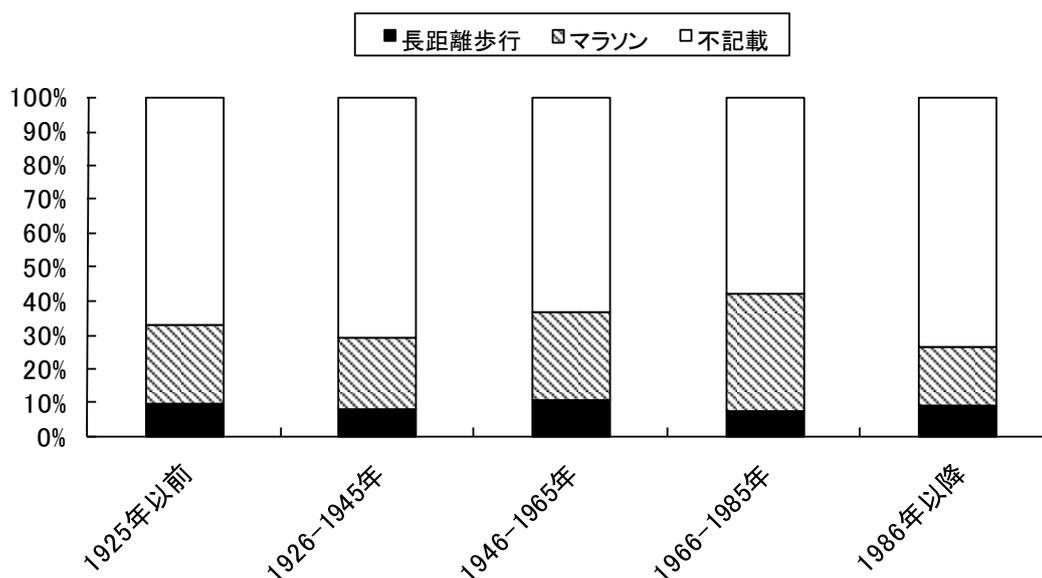


図 6. 創立年度から見た実施状況の割合

1925年以前 164校 (9.5%)、1926-1945年 49校 (7.8%)、1946-1965年 124校 (10.3%)、1966-1985年 69校 (7.2%)、1986年以降 28校 (8.7%)であった。また、マラソンにおいて 1925年以前 400校 (23.1%)、1926-1945年 134校 (21.3%)、1946-1965年 314校 (26.1%)、1966-1985年 333校 (34.7%)、1986年以降 56校 (17.5%)であった。長距離歩行の実施状況に関しては学校創立年度との関連が認められた ($\chi^2(4) = 144.6$ 、 $p < 0.001$)。また、マラソンに関しても実施状況に関しては学校創立年度との関連が認められた ($\chi^2(4) = 341.7$ 、 $p < 0.001$)。

4. 考察

本研究は、全国の高等学校での長距離歩行行事の実施状況を調査することを目的とし、インターネット上で調査を行った。

全国の実施割合から見てみると、同じ地方の中でも都道府県別に実施状況に違いが見られ、一部の地域の実施率が高いという傾向は見られなかった。このことから、体育行事の取り組み方は、都道府県ごと、また

地域ごとに異なっていると考えられる。長距離歩行の 8.8%に比べ、マラソンは 25.4%となっており、現在高等学校で行われている体育行事ではマラソンの方が多く実施されていることが明らかとなった。また、不記載が 64.9%もあったことから、半分以上の高等学校が長距離歩行やマラソンを行っていないことが分かった。

実施距離の点から長距離歩行とマラソンを比較すると、長距離歩行の方が長い距離を歩く行事であった。また、このことから距離に比例して長い時間かけて行うということも考えられる。男女で比較したところ、長距離歩行もマラソンも男子の方が長い距離を歩いていることが示された。

創立年度から、長距離歩行とマラソン共に有意な差が認められた ($p < 0.001$)。このことから、長距離歩行もマラソンも創立年度によって実施している高等学校の数が増えていることが分かった。また、どちらに関しても 1986 年以降に創立された高等学校において、体育行事として長距離歩行やマラソンを実施している高等学校が少なくなっていることがわかった。しかし、高等学校の数は減っているものの実施している割合に関しては変化しておらず、絶対数が減っているだけで、実施し始めている高等学校は変わらないと考えられる。

本研究では、インターネットを使用して調査を行なった。インターネットは広い範囲を短時間で調査することに優れており、目的としていた長距離歩行行事の実施状況の調査に関して、高等学校の約 99%のデータが集まった。これは質問紙調査を行なうよりも高い情報収集力であると考えられる。しかし、公式ホームページ上に長距離歩行といった体育行事が、実際は行われているのに掲載されていない場合はデータとして抽出することが出来なかったため、今回のデータは実施率を過小評価して

いるかもしれない。従って、データを読み取る際に、この点に注意することが必要であると思われる。

第3章 研究II：長距離歩行行事の意義と運営における問題点およびその対処方法の検討

1. 目的

研究Iで明らかとなった長距離歩行行事を実施している高等学校では、行事に対して魅力を持っており、継続的に実施するためにいくつかの問題点を解決して現在でも実施していると考えられる。そこで、研究IIでは、今後も継続的に長距離歩行行事が実施できるような情報を提供するために、現在長距離歩行行事を実施している高等学校が行事にどのような魅力持ち、現在までに起きた問題点に対しどのように対処してきたのかを調査することを目的とした。

2. 方法

2-1. 調査対象・調査期間

研究Iで明らかになった長距離歩行行事を実施している高等学校445校の中から、予備調査に対する回答が得られ、かつ、本調査への協力に同意が得られた214校(48.1%)を対象に質問紙調査を行い、質問紙調査の回答を得られた117校(54.7%)の高等学校を分析対象とした。調査期間は2008年5月7日～5月23日で行った。質問紙は、長距離歩行行事担当者が回答するように依頼した。

2-2. 質問項目

質問内容は、学習指導要領(文部科学省、2003)、持久走大会の現状について研究した下田(1999)、高等学校のウォーキングイベントについて注目した池田ら(2007)の調査項目を基に作成した。質問項目は、問1「学校名」、問2「長距離歩行行事の目的」、問3「長距離歩行行事の参加率

と完歩率」、問 4「長距離歩行行事から生徒が得られるもの、もしくは魅力」、問 5「長距離歩行行事以外の体育行事」、問 6「マラソン大会ではなく長距離歩行行事を実施している理由」、問 7「長距離歩行行事の廃止、縮小、あるいは他行事への変更の計画・検討」、問 8「長距離歩行行事を運営していくにあたって、困難を生じる点」、問 9「問 8 で上げられた問題点に対してどのような対処・解決をしてきたか、または、もしもそのような状況に直面した時の対処方法」、問 10「行事に参加している生徒の目線から見た長距離歩行行事の魅力」、問 11「行事に参加している生徒の目線から見た長距離歩行行事の問題点」となっていた。その質問項目の中から、本稿では、特に重要だと思われる問 4、問 6、問 7、問 8、問 9、問 10、問 11 から得られたデータを解析対象とした。なお、該当する質問項目(問 9 は省略)については表 4 に記した。

2-3. 分析方法

長距離歩行行事の魅力、問題点において、どのような要因が多く認識されているかについて、記述統計を算出し検討を行った。さらに自由記述で得た長距離歩行行事の具体的な問題点と具体的な対処方法、長距離歩行行事を行っている意義、行事の縮小・廃止の予定については、質問紙から得られた回答からキーワードを抽出し、研究者 3 人でカテゴリー分けを行った。具体的な問題点と具体的な対処方法については、カテゴリー分けを行った後、1 校しか回答を得られていない内容に関しては除外して検討した。

表4. 本研究の質問項目と単純集計結果

問4 実際を実施していく中で、貴校で実施されている長距離歩行行事から生徒が得られるもの、もしくは魅力はどのようなものですか。当てはまるもの全てに○をつけてください(複数回答可)。		N(%)							
1. 心身の健全な発達を促す		86(73.5)							
2. 農田での田結力を身につけられる		42(35.9)							
3. 運動から人間関係の構築を図れる		48(41.0)							
4. 生徒の体育授業の成績発表の場として活用できる		16(13.7)							
5. 運動に対する関心や意欲の向上につながる		28(23.9)							
6. 運動習慣が身につく		10(8.5)							
7. 活力のある生活を生み出す態度を育てる		55(47.0)							
8. その他(伝統行事に参加することで高等学校への所属意識が高めることができる など)		21(17.9)							
問6 事前調査において、マラソン大会等を実施している高等学校は全国で1287校(25.4%)という結果が得られました。貴校において、マラソン大会ではなく長距離歩行行事を実施している理由があればお知らせ下さい。									
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>伝統だから</td> <td>16(17.8%)</td> <td rowspan="3">) 回答数90校</td> </tr> <tr> <td>精神力・達成感</td> <td>13(14.4%)</td> </tr> <tr> <td>交通安全面での考慮</td> <td>12(13.3%)</td> </tr> </tbody> </table>		伝統だから	16(17.8%)) 回答数90校	精神力・達成感	13(14.4%)	交通安全面での考慮	12(13.3%)	
伝統だから	16(17.8%)) 回答数90校							
精神力・達成感	13(14.4%)								
交通安全面での考慮	12(13.3%)								
問7 貴校で実施されている長距離歩行行事について、中止、縮小、あるいは他行事への変更などの計画・検討がありますか。ある場合は、その内容と理由もご記入下さい。									
1. はい	⇒	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>交通事情</td> <td>7(31.8%)</td> <td rowspan="3">) 回答数22校</td> </tr> <tr> <td>ゆとりがないため</td> <td>3(13.6%)</td> </tr> <tr> <td>保護者の問題</td> <td>3(13.6%)</td> </tr> </tbody> </table>	交通事情	7(31.8%)) 回答数22校	ゆとりがないため	3(13.6%)	保護者の問題	3(13.6%)
交通事情			7(31.8%)) 回答数22校					
ゆとりがないため	3(13.6%)								
保護者の問題	3(13.6%)								
2. いいえ									
問8 長距離歩行行事を運営していくにあたって、困難を生じる点はございますか。下記のうち当てはまるもの全てに○をつけて下さい(複数回答可)。		N(%)							
1. 行事を実施する上での安全面での交通整備が難しい		69(59.0)							
2. 地域住民の理解が足りない		4(3.4)							
3. 運営協力者の人数の少ない		30(25.6)							
4. 週5日制による体育行事削減への対応		10(8.5)							
5. 生徒の行事に対する意欲が低下したこと		12(10.3)							
6. 他の体育行事との兼ね合い		6(5.1)							
7. 行事実施中の事故		33(28.2)							
8. その他(トイレの設置、コース設定が難しい、天候の問題 など)		17(14.5)							
以下の問10・問11については実際に長距離歩行行事に参加している生徒からの目録でご記入下さい。									
問10 実際に長距離歩行行事を歩いている生徒から見た、長距離歩行行事の魅力はどのようなものが考えられますか。当てはまるもの全てに○をつけてください(複数回答可)。		N(%)							
1. 体力が向上する		21(17.9)							
2. 精神力や忍耐力が向上する		57(48.7)							
3. 完歩したことで達成感が得られる		106(90.6)							
4. ストレスを解消できる		14(12.0)							
5. 日常では経験できない体験が得られる		79(67.5)							
6. 自然と触れあえる		49(41.9)							
7. 友達との交流が深められる		78(66.7)							
8. 他校の生徒と交流が得られる		0(0.0)							
9. みんなで1つのことに取り組むことが出来る		25(21.4)							
10. ウォーキングに興味が高まる		2(1.7)							
11. 運動習慣が身につく		5(4.3)							
12. その他(体力のなさを痛感することで運動をするようになる など)		5(4.3)							
問11 実際に長距離歩行行事を歩いている生徒から見た、長距離歩行行事の問題点はどのようなものが考えられますか。当てはまるもの全てに○をつけてください(複数回答可)。		N(%)							
1. 満足感や充実感を得られない		13(11.1)							
2. 行事に対する魅力を理解出来ない		47(40.2)							
3. ウォーキング自体に興味がない		19(16.2)							
4. 歩行距離が長い、短い		63(53.8)							
5. 気温が高い、低い		18(15.4)							
6. コースが歩きづらい		14(12.0)							
7. 体力差(性別や学年など)の考慮がない		23(19.7)							
8. その他(コース上の虫の問題、コンビニが途中にない、足の痛み など)		8(6.8)							

3. 結果

3-1. 長距離歩行行事から得られるもの、もしくは魅力について(表4)

「長距離歩行行事から生徒が得られるもの、もしくは魅力」の回答率は、「心身の健全な発達を促す」を86校(73.5%)で最も回答率が高かった。他の項目については、「活力のある生活を生み出すことができる」が55校(47.0%)、「運動から人間関係の構築を図れる」が48校(41.0%)の高等学校が選択した。また、「その他(自由記述)」については、「伝統行事に参加することで高等学校への所属意識を高めることができる」、「自然への関心、理解」、「自己への挑戦」などが挙げられていた。

「行事に参加している生徒の目線から見た長距離歩行行事の魅力」は、「完歩したことで達成感が得られる」について106校(90.6%)の回答が得られ、「日常では経験できない体験が得られる」79校(67.5%)と「友達との交流が深められる」78校(66.7%)も高い回答率が得られた。「その他」に関しては、「体力のなさを痛感することで運動をするようになる」、「友達と励ましあったり協力しあったりして1つのことを達成できる喜びを味わう」、「授業以外の体験ができる」といった項目が上げられた。

3-2. 長距離歩行行事の実施において、困難を生じる点、もしくは問題点について(表4)

「長距離歩行行事を運営していくにあたって、困難を生じる点」の回答率において、「行事を実施する上での安全面での交通整備が難しい」が69校(59.0%)の回答を得られた。それ以下の回答率は、「行事实施中の事故」が33校(28.2%)で「運営協力者の人数が足りない」が30校(25.6%)となっており、安全面での交通整備という問題点以外は、回答率が低くなった。また、「その他」の中には、「トイレの設置」、「コ

ース設定が難しい」、「天候の問題」といった内容が挙げられた。「行事に参加している生徒の目線から見た長距離歩行行事の問題点」は「歩行距離が長い、短い」の項目が63校(53.8%)の回答率を得られた。さらに、「行事に対する魅力を理解できない」が47校(40.2%)、「体力差(性別や学年など)の考慮がない」が23校(19.7%)であった。「その他」の内容には、「コース上の虫の問題」、「コンビニが途中にない」、「足の痛み」といった問題点も挙げられていた。

3-3. 長距離歩行行事を実施している理由について(表4)

「マラソン大会ではなく長距離歩行行事を実施している理由」(N=90)について、最も回答数が多かったのは「伝統行事として行っているため」という内容で16校(17.8%)が挙げており、具体的には「戦前より行われている本校の伝統行事として引き継がれている」といった内容が挙げられていた。他には、「厳しい条件の中、歩き通すことによって、強い精神力を身につける。」といった内容が挙げられ、精神力や達成感を得るためという項目も13校(14.4%)から回答された。また、マラソン大会と比較した魅力としては、交通安全確保の容易さや競争になりにくく楽しめる要素を取り組んでいるといった内容が抽出された。なお、長距離歩行行事とマラソン大会の両方を実施していたり区別が曖昧であったりする高等学校が13校(14.4%)認められた。

3-4. 長距離歩行行事の廃止、縮小、あるいは他行事への変更の計画・検討について(表4)

縮小廃止の予定については22校から回答が得られ、危険個所を避けるなど、ルート変更および距離の縮小を検討している高等学校があり、交通事情によって縮小や廃止の傾向にある高等学校があることが示された。また、多数の保護者の協力を必要とする行事であるが、生徒の減

少によって保護者の運営協力者が少なくなっているという状況も挙げられていた。

3-5. 長距離歩行行事の問題点に対する対処方法について(表5)

運営上の具体的な問題点と具体的な対処方法については、全てのカテゴリーが1校しか得られなかったため「他の体育行事との兼ね合い」に関しては検討対象から除外した。最も回答数が多かった「行事を実施する上での安全面での交通整備が難しい」という問題点に関して、その具体的な問題点の内容として「交通量の多い道を通る」(20校)や、「歩道のない道路・狭い道路の通行」(14校)、「生徒の交通事故防止」(7校)、「大型車・トラックの交通量が多い」(7校)といった具体的な問題点が挙げられていた。また、これらの問題点に対する対処方法として、教職員や保護者、地域、警察などによる交通整理という方略がとられていた。「行事中の事故」の具体的な問題としては、「怪我人・急病人の対策」(9校)や「熱中症対策」(6校)、「交通事故対策」(4校)が挙げられていた。「安全面での交通整備が難しい」、「行事中の事故」および「運営協力者の人数が少ない」という問題点については、その具体的な内容に関して自由記述の得られた割合が高く、共通して得られている対処方法としては、教職員だけではなく保護者や警察、地域住民の協力を得ながら行事を実施していることがわかった。また、交通整理以外の方法としては、コースの設定方法の工夫が挙げられ、交通量の多い道や歩道のない道を通らないようにする適切なコース設定や、関門を増加して生徒の動向を見守るという方法も取られていた。また、回答数は少なかったが、交通安全のためにのぼり旗や看板などで注意を喚起するという方法を取っていたり、生徒の出席率を向上させる対策のために追歩行を行っていたりする高等学校があった。

表 5. 長距離歩行行事の具体的な問題点と具体的な対処方法

行事を実施する上での安全面での交通整備が難しい	N	運営協力者の人数が足りない	N
交通量の多い道を通る(20校)		交通指導員やチェックポイントでの人数が教師だけでは足りない(24校)	
教師を交通指導員として配備	11	保護者に交通指導の協力を依頼	15
保護者に交通指導の協力を依頼	6	教師が数カ所交通指導を掛け持ちして運営	3
歩道のある道路(幹線道路・サイクリングロード)に変更	4	全教師(体育教師以外、非常勤講師)の協力	3
コースの安全確認・変更	4	学校後援会や卒業生の協力	3
生徒に事前指導(コース説明)	4	行事不参加生徒の協力	2
警察への届け出をして協力を依頼	2	生徒の減少に伴い教師・保護者も減少(4校)	
のぼり旗や看板で車に行事実施を伝え注意喚起	3	コースの検討・短縮	2
交通安全協会、駐在所への協力を依頼	2	未記載(21校)	
歩道のない道路・狭い道路の通行(14校)		保護者に交通指導の協力を依頼	11
教師を交通指導員として配備	7	全教員(非常勤講師、学年づき以外の教員)の協力	4
保護者に交通指導の協力を依頼	4	スポーツ救護赤十字奉仕団、地域住民の協力	2
警察に信号機の交通指導や、巡回を依頼	3	試合を直前に控えている生徒、けがをしている生徒に交通整理	2
生徒に対する事前指導(コース説明)	3	生徒の行事に対する意欲が低下した	N
交通量の少ない道に変更	3	行事に対する意欲の低下(6校)	
のぼり旗や看板で車に行事実施を伝え注意喚起	2	行事実施の必要性の理解	3
生徒の交通事故防止(7校)		教員が励ましながら実施	2
教師を交通指導員として配備	5	タイムオーバー・欠席がいる(3校)	
より安全なコースに設定	4	追歩行の実施	2
保護者の協力	3	未記載(15校)	
大型車・トラックの交通量が多い(7校)		生徒への事前指導	3
建設会社と連絡をして歩行通路を確保	5	意識向上	2
コースの安全確認・変更	3	体育授業に持久走の取り入れ	2
危険個所での交通指導員が足りない(6校)		週5日制による体育行事削減への対応	N
保護者の協力	4	未記載(13校)	
未記載(23校)		伝統行事として実施しているので問題なし	3
交通量の少ない道(山道、サイクリングロード、堤防道路)へ変更	6	大会の重要性について教員の理解を得る	2
保護者に交通指導の協力を依頼	5	地域住民の理解が足りない	N
警察に協力の依頼	5	交通の邪魔になるといふ苦情が来る(3校)	
河川国道事務所や国土交通省に事前連絡	2	教師の交通整理	2
行事中の事故	N	未記載(16校)	
怪我人・急病人の対策(9校)		事前に役場や地域住民に行事実施を連絡	7
教師を多く配置	2	居住者の少ないコースに変更して実施	2
救護車の待機	2	その他	N
病院に緊急時の対応を依頼	2	天候の影響で実施できない(4校)	
看護師の配置	2	事前に天気予報を確認し中止	4
熱中症対策(6校)		距離の変更	2
チェックポイントでの給水・食事	4	未記載(5校)	
交通事故対策(4校)		事前にコースの検討	2
関門を多くして生徒の動向を把握	2		
藪やハチなどの対策(4校)			
クマよけの鈴を配布	2		
未記載(22校)			
警察、消防、病院の協力	8		
巡回車でパトロールを実施	5		
事故対応マニュアルを作成	4		
救護車の待機	4		
医者への待機	2		

※ 太字ゴシック体で下線を付けて記述しているのが選択した問題点、ゴシック体の斜体が具体的な問題点、明朝体が具体的な対処方法。問題点には()の中に選択した高等学校の数を、対処方法の校数はNと書かれた段に記述してある。

4. 考察

本研究は、体育行事が精選されていく中、長距離歩行行事の魅力と問題点を明らかにすることで、現在でも長距離歩行行事を実施している高等学校が今後も行事を実施していけるような情報提供を行うために、行事実施校に対して質問紙調査を行った。

本研究の結果から、長距離歩行行事から生徒が得られるもの、もしくは魅力は、「心身の健全な発達を促す」が最も多いことが確認された。さらに、行事に参加している生徒の目線から見た長距離歩行行事の魅力としては、「完歩することによる達成感」や「日常では得られない体験」、「友人との交流」が多く選択された。池田ら(2007)の研究でも、友人との交流が長距離歩行行事に参加したときの楽しかったこととして、最も回答割合が高いことが示されている。本研究の結果を合わせれば、コミュニケーション能力の育成や友人との交流といった対人的側面や、心身の健全な発達や達成感・非日常的体験といった恩恵が、長距離歩行行事の主要な魅力であるということが出来る。また、「地域の自然への関心を高めること」や、「清掃活動の一環」という意義をもって行事を運営している高等学校もあり、本研究で回答割合の高かった項目以外にも多くの魅力を有している可能性が示された。

長距離歩行行事を実施している理由の結果から、行事を実施している高等学校は、伝統や精神力・達成感を得られる行事として現在でも継続的に実施している高等学校が多いことが示された。精神力・達成感に関する内容は行事の魅力に関する設問でも回答割合が高く、本研究の結果は、長距離歩行行事は精神的な効果が得られる行事であることを更に強調している。また、交通安全面や生徒の健康面での考慮ができる点や、競争を目的にするよりも完歩を目的として実施できる点が、マラソンと

の主な相違点であると考えられる。

行事運営上の問題点に関しては、交通整備や安全面に関する項目が、最も回答割合が高かった。これは、下田(1999)の持久走を対象にした研究でも同様の結果が示されており、長距離歩行行事や持久走大会の運営時には、交通安全の為に交通整備が最も配慮されていることが示された。交通整備や安全面に対する対処方法としては、教員・保護者・生徒・地域住民等の協力(交通整理、チェックポイントでの待機等)が多く選択されており、その他にコースの調整等が挙げられていた。運営協力者の人数が少ないという問題点に対する対処方法は、安全面の対処方法と同じような内容になっており、教職員だけでは足りない場合には、保護者、地域住民、自治体、さらには行事に参加しない生徒にまで協力してもらう高等学校があった。これらのことから、運営協力者が果たす主要な役割は、行事運営において特に留意すべき点である安全面・交通整備のサポートであり、教職員だけで運営協力者が保てない場合は、保護者や地域住民など高等学校を取り巻く人々の協力が求められる点が示唆された。特に、行事に対して何かしらの形で保護者が協力している高等学校は111校中38校で、保護者の協力は重要なポイントであることと考えられる。また、事故対策のために、医療従事者の協力を得ている高等学校(看護師や医師の待機、救護車の準備等)もあり、警察、消防、医療関係者等の公的機関からのサポートが、行事運営において重要な要因となる場合もあることが考えられる。「運営協力者の人数が少ない」という問題点に対して、行事担当教員以外の協力を得ることも対処方法として挙げられており、行事を盛り上げていくためには、生徒の意欲向上だけでなく、行事担当教員以外の行事に対する意欲を向上させることも必要であると考えられる。さらに、行事に対する生徒の意欲が低いという問題点

に対して、行事に欠席する生徒に追歩行を実施することで行事への参加率を高めていたり、旗や看板を使用して行事を実施していることを伝え事故防止をしようとしていたりして対処している高等学校もあり、様々な工夫をしながら意欲の向上を図っていることが考えられる。生徒の意欲を向上させる方法については、行事の必要性を事前指導で理解させることや、完歩賞やクラスでの団体賞を準備することで意欲の向上を図ろうとしている。行事を行っている理由の中で、完歩を目的としていることや、達成感を得るという考えが組み込まれていることから、行事に対する意欲を向上させ、完歩したときの達成感を得ることが重要であると考えられる。

本研究において、予備調査の協力校は366校であり、そのうち214校から本調査への協力の同意が得られたが、本調査に対する回答が得られた高等学校は117校であった。このことに対しては、本調査の調査期間が新年度開始間際であった点、また行事が開始したときのことを知らない教員が記入するため回答しにくい部分があった点による影響が考えられる。また、本研究では教員に対して調査を行ったため、実際に行事に参加している生徒の意識については不明である。今後の研究では、実際に歩行行事に参加している生徒に質問紙調査をすることも重要であると考えられる。

本研究は、現在まで長距離歩行行事を実施してきた高等学校が、どのように行事を実施し続けてきたかを明らかにすることを目的として行った。本研究より長距離歩行行事を運営していく際の問題として最も広く認識されていることは、安全のための交通整備であることが明らかとなった。そのための対処方法は、交通指導員の増加やコース変更などが挙げられていた。現在でも行事を継続的に実施している高等学校では、行

事に対して魅力を感じており、行事自体の魅力として、心身の健全な成長、友人とのコミュニケーション、達成感といった内容が挙げられている点、また運営面から考えると、マラソン大会よりも安全である点が、現在まで長距離歩行行事が伝統的に実施されてきた大きな理由であると思われる。

第4章 総合論議

1. 本研究により得られた知見

1-1. 高等学校における長距離歩行行事の実施状況について

本研究により得られた知見の1点目は、高等学校における長距離歩行行事の実施状況に関するものである。研究Ⅰにおいて、インターネットを用いて調査を行った結果、公式ホームページのある全国の高等学校5058校における長距離歩行行事実施率は8.8%(445校)であり、マラソン大会(25.4%)と比較すると長距離歩行行事の実施率は低かった。マラソン大会のほうが長距離歩行行事よりも実施率が高かった理由としては、実施距離の長さや距離の長さに伴う所要時間の長さに関連しているのではないかと考えられる。研究Ⅱより、行事を実施する上での最重要課題は安全面での交通整備であるということが示されている。この結果から、実施距離が長く、距離が長い分所要時間がかかる長距離歩行行事は、交通指導やコース設定などで、実施が困難であったのかもしれない。また、都道府県別に実施状況を比較したところ、長距離歩行行事の実施率が40%以上である山梨県のような都道府県もあれば、静岡県のように長距離歩行行事の代わりにマラソン大会を実施している都道府県や、長距離歩行行事をまったく行っていない都道府県もあった。また、創立年度の長距離歩行行事実施率は変わらず、古くからの伝統校でも、近年設立した高等学校でも、同程度の割合で長距離歩行行事を実施していることが確認された。

1-2. 長距離歩行行事の意義について

本研究により得られた知見の2点目として、長距離歩行行事の意義があげられる。研究Ⅱより、「長距離歩行行事から生徒が得られるもの、

もしくは魅力」、「マラソン大会ではなく長距離歩行行事を実施している理由」、「行事に参加している生徒の目線から見た長距離歩行行事の魅力」の3項目から得られた長距離歩行行事の意義の共通点は、「精神的成長」や「完歩したことによる達成感を味わう」といった心理的恩恵に関するものであった。また、「運動から人間関係の構築が図れる」や「友人との交流が深められる」といった項目も、多く選択されていることから、コミュニケーション能力の発達といった社会的恩恵も長距離歩行行事の意義として考えられる。そのため、行事を運営している教職員は、生徒が行事を経験することで精神的成長やコミュニケーション能力の向上が得られると考えている可能性が示された。研究Ⅱより得られた心理的・社会的恩恵は、学習指導要領の「安全な行動や規律のある集団行動の体得、責任感や連帯感の涵養」といった内容と関連していると考えられることから、長距離歩行行事は心理的・社会的恩恵を意義として行っている可能性が示唆された。さらに、大塚ら(2006)によると、現代の子どもの問題点はコミュニケーション不足や精神的成長の遅れであると示唆されており、長距離歩行行事はこのような問題に対して有効な行事であり、高等学校で行事を経験することは子どもの成長に役立つかもしれない。

1-3. 長距離歩行行事の問題点と対処方法について

本研究から得られた3つ目の知見は、長距離歩行行事の問題点とその対処方法についてである。研究Ⅱで、「長距離歩行行事の廃止、縮小、あるいは他行事への変更の計画・検討」、「長距離歩行行事を運営していくにあたって、困難を生じる点」、「行事に参加している生徒の目線から見た長距離歩行行事の問題点」の3項目から共通して得られた問題

点は、「安全面の交通整備」である。「安全面での交通整備」の具体的な問題点には、「交通量を多い道を通る」や「歩道のない道路を通行する」といった内容が挙げられていた。さらに、その具体的な対処方法として、教職員以外の交通指導員(警察、保護者等)の増加や、適切なコース設定といった内容が挙げられた。安全面と関連して、医療従事者に協力を依頼しておき緊急時に備えている高等学校もあった。安全面での交通整備対策としては、教職員だけではなく、保護者や地域住民、医療従事者のような周りの協力体制を作ることが重要だと考えられる。

2. 展望

本研究は、高等学校における長距離歩行行事会の実施状況について全国的に調査・検討し、行事運営について調査した初めての研究である。

研究Ⅱの質問紙調査に回答の得られた、現在でも継続している高等学校117校の中には、行事を縮小・廃止しようと計画している高等学校が22校(18.8%)存在した。その原因として、行事を始めた段階では、教育的意味を持った歩行教育である歩育を目標として行っていたが、その後、歩行環境の変化や、教育制度の改革など状況が様々に変化したことが考えられる。さらに、行事運営の問題点において特に多く挙げられていたのが、安全面での交通整備や運営協力者の人数の減少である。安全に行事を行うための交通整備には、運営協力者の存在が必要不可欠となる。このことは、学校場面で身体活動を促進するために行った研究の中でも述べられており(Chodzko-Zajko et. al, 2008)、学校行事を運営していく際には、教職員だけではなく、地域住民のサポートが必要になってくるだろう。研究Ⅱで示された対策方法として「保護者による協力を得る」という対策が多く挙げられていたが、少子化による生徒数の減少に伴い

保護者数も減少していると考えられることから、保護者の協力に頼るのは難しい可能性がある。そこで、地域住民、特に卒業生の協力が重要になってくると考えられる。卒業生は行事を経験しており、その恩恵を受けていることから、行事を継続的に実施していこうという意欲が高いかもしれない。

本研究の課題は、高等学校にどのような形で「歩育」を取り入れていくかである。現在、「歩育」の意義や問題点について研究したデータが少なく、「歩育」として高等学校のカリキュラムの中に取り入れるには、十分な有効性が示されているとは言えない。今後は本研究のような研究結果を示し、「歩育」の有効性を示していく必要がある。しかし、現代社会において子どもの遊びや身体活動の減少、体力低下、犯罪の低年齢化などの問題が指摘されており、そのような問題の背景には、子どもの生育環境や遊びの変化、他者との関わり合いやコミュニケーション能力の不足といった内容が挙げられる(大塚ら、2006)。このような子どもの抱えている多くの問題点を解決するために、学校での体育教育の役割は大きい。中でも、本研究で取り上げた「歩育」というテーマにより、心身の健全な発達やコミュニケーション能力を養い、完歩することによって大きな達成感を得ることによって、諸問題の解決につながる可能性がある。閉校や合併により行事継続を検討している高等学校においても、行事によって得られる恩恵を理解しつつも運営が困難な状況になってしまっている。そこで、本研究のデータを発信することで、本研究で取り上げられた行事の意義を認識し、問題点に対する対処方法を利用することで、今後も継続的に実施出来るようになると考えられる。実施している高等学校が、積極的な情報交換を出来るようになること、それこそ長距離歩行行事が継続的に実施出来るようになる上で、最も効果的な手

助けとなるだろう。本研究によって長距離歩行行事の意義や魅力を認識することで、今後の継続的な実施、さらには長距離歩行行事を通じた歩行教育の普及へとつながると考えられる。

本研究の出典

本研究は、以下の学術論文を加筆・訂正したものを中心に構成されている。

研究Ⅰ：木内虹平・原田和弘・秋山由里・中村好男（2007）. 高等学校における強歩大会の実態調査，ウォーキング研究，11，89-93.

研究Ⅱ：木内虹平・原田和弘・中村好男（2008）. 高等学校における長距離歩行行事の意義と運営における問題点とその対処方法，ウォーキング研究，12，127-133.

文 献

朝日新聞記事 2007年12月13日16面

Bailey R (2006). Physical education and sport in school : A review of benefits and outcome, Journal of School Health, 76(8), 397-401.

第80回強行遠足記念誌編集委員会 (2007). 山梨県立甲府第一高等学校(編) 2006 第80回強行遠足記念誌歩け精魂のかぎり, 山梨県立甲府第一高等学校

長谷川八郎・小林健三・古屋正・楠立雄・桐生良夫・向井皋士・西平梅子 (1958). 山梨県下の中・高校に於ける「強歩大会」に関する調査研究, 山梨大学学芸部研究報告, 9, 66-73.

土生善弘・石川旦 (2000). 日常生活における高校生の身体活動と学校体育とのかかわりについて—運動部所属・非運動部所属・教師における意識・実態の比較から—, 仙台大学大学院スポーツ科学研究科研究論文集, 1, 23-31.

浜崎博・小野桂市・沢田和明・瀬戸進・田尻茂隆・増田洋 (2000). 体育授業の削減は児童の活動量を低下させる, 日本体育学会大会号, 51, 359.

藤田勉・杉原隆 (2007). 大学生の運動参加を予測する高校体育授業における内発的動機づけ, 体育学研究, 52, 19-28.

池田克紀・室星隆吾・阿部博之・沼田晶弘 (2007). 高等学校が主催する長距離ウォーキングイベントが高校生に与える影響と有用性, ウォーキング研究, 11, 101-106.

金崎良三 (2000). 社会人のスポーツ・コミットメントの形成に及ぼす学校体育の影響, 研究論文集:佐賀大学紀要, 4(2), 151-166.

- 小出高義・大道等 (2000). 「ゆとり」時間と児童・生徒のスポーツ活動～学校五日制における諸問題～, 国際武道大学紀要, 16, 279-299.
- 村山友宏 (2008). ウォーキングの教育的意義と「歩育」の可能性, ウォーキング研究, 12, 21-29.
- 室星隆吾 (2006). 明治以降のウォーキング教育, ウォーキング研究, 10, 63-67.
- 文部科学省 (2003). 新学習指導要領 高等学校学習指導要領.
- 大窄貴史・六鹿由紀・家田重晴・勝亦紘一 (2006). 中学、高校の体育授業における「体づくり運動」等の指導内容, 中京大学体育学論叢, 47(1), 1-13.
- 大谷武一 (1941). 強歩の意義 正常歩, 目黒書店, Pp. 99-104.
- 小野三嗣・宮崎義憲・渡辺雅之・池田道明・長尾憲樹・山本隆宣・清水悟・原英喜・小野寺昇・田中弘之・湊久美子・原田邦彦・小川芳徳・春日規克 (1981). 長距離歩行の至的処方確立のための基礎的研究(その一), 体力科学, 30(4), 193-205.
- 佐藤邦弘・中村好男 (2007). 長距離歩行における歩行環境の好みに関する調査, ウォーキング研究, 11, 85-88.
- 塩田桃子 (2006). 青年期における運動の実態と体育授業の課題—専門学校生の調査から—, 創発:大阪健康福祉短期大学紀要, 4, 107-113.
- 下田将美 (1999). 持久走大会について～埼玉県高等学校の持久走大会の現状と今後のあり方を探る～, 関東地区高等学校保健体育研究, 64-70.
- 鈴木純子・室星隆吾・太田繫 (1997). 学校教育における歩行運動の

- 歴史, 江橋慎四郎編, ウォーキング研究Ⅱ, 不味堂出版, Pp. 9-21.
- 鈴木純子・室星隆吾 (1999). 歩行教育論: 大谷武一と正常歩, ウォーキング科学, 3, 47-52.
- 田神一美・今泉慧・上地勝・高橋美幸・田中洋一・萩原一輝・江口篤寿 (2005). 高校生における長距離歩行の完遂割合と足部傷害の実態並びにこれらに影響する要因, 学校保健研究, 47, 162-171.
- 高橋健夫 (2008). これからの学校体育の課題と展望, 現代スポーツ評論, 18, 55-61.
- 渡辺雅之・宮崎義憲・長尾憲樹・山本隆宣・小野寺昇・田中弘之・原英喜・渡辺勉・外山寛・西牧正之・湊久美子・小野三嗣 (1984). 長距離歩行の至的処方確立のための基礎的研究(その二), 体力科学, 33, 217-228.
- Chodzko-Zajiko Wojtex, Zhu Weimo, Bazzarre Terry, Casteli Darla, Graber Kim, Woods Amelica (2008). "We Move Kids"-The Consensus Report from the Roundtable to Examine Strategies for Promoting Walking in the School Environment, Medicine & Science in Sports & Exercise, 40(7), S603-S605.

謝 辞

本論文を提出するにあたって、副査を引き受けていただいたスポーツ科学学院の友添友則先生、岡浩一朗先生に感謝の意を表します。特に岡先生は、学部時代に大学院進学を悩んでいる際に、多くの助言をして頂き、現在の研究室を紹介して頂きました。

論文執筆において、総合研究機構の柴田愛さん、博士課程の李恩兒さんと原田和弘さんには私の至らぬ点を多くの面で支えて頂きました。特に原田さんには、修士課程に入ってから今まで言葉では表せないほどの感謝を抱いております。また、学部時代にお世話になった人間科学研究科の嶋田洋徳先生にも、毎回研究を報告しに行く際に、多くのアドバイスをして頂き遠くから私の研究活動を見守って頂いたように感じております。

そして、指導教員であるスポーツ科学学院の中村好男先生には、この2年間、私自身の成長のために多くのアドバイスや成長するための場を与えて頂き、本当にお世話になりました。

最後に、かげながら私を支えてくださいました、家族・友人にお礼申し上げます。

皆様、ありがとうございました。

平成 21 年 1 月 15 日

木内 虹平

資料

研究Ⅱで使用した質問用紙

長距離歩行行事に関する全国調査ご協力のお願い

寒風の候、貴校にはますますご清祥のことと存じ上げます。さて、今般、日本ウォーキング学会では、我が国の高等学校における長距離歩行行事についての全国調査研究を実施することとなりました。つきましては、本調査にご協力を賜ることが出来ると幸いに存じます。ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、何卒ご高配のほど、よろしく願いいたします。

記

1. 研究のねらい

近年、生活習慣病や健康促進といった問題意識が背景にある中、中高年者にはウォーキングが勧められています。また、子どもへのウォーキング促進の取り組みも盛んに行われています。ただし、青年期におけるウォーキング実施状況については明確には把握されていません。

ところで、高等学校の中には、学校行事として長距離歩行を実施している学校があります。長距離歩行には、運動に対する意識を高めるだけでなく、忍耐力を身に付けたり、友人同士の助け合いの気持ちが生まれたりするなど、高校生の人格形成にも有効であると言われていました。

そこで日本ウォーキング学会では、全国の高等学校で、教育プログラムの一環として長距離歩行行事(強歩大会、ウォーキング大会など)をどの程度実施しているかを明らかにすることを目的とした調査を実施しております。

2. 本研究の構成

本調査の前提といたしまして、全国すべての高等学校のホームページを閲覧し、長距離歩行行事の実施の有無を調査しました(別刷参照)。この資料は、ウォーキング研究第11号にて研究発表として掲載されたものです。この研究発表を踏まえて、その実施状況についてさらに詳しく調査するために、本質問紙調査を企画いたしました。

今回の質問紙は最小限の項目に留めておりますが、その結果を踏まえて、さらに詳しい内容について第二次質問紙調査を実施する予定です。第二次調査にご協力いただける場合には、質問紙末尾の設問にてご解答いただけますと幸いです。

3. 調査期間

ご回答は、同封の返信用封筒にて、2008年1月18日(金)までにご投函下されれば幸いです。

4. 結果の報告について

ご協力いただきました結果につきましては、とりまとめ次第、報告書を送付いたします。

本件照会先

早稲田大学体力科学研究室内
日本ウォーキング学会 長距離歩行研究班
責任者・中村好男
〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15

資料

TEL& FAX : 04-2947-6829 (担当 木内)

貴校の高等学校で実施されている長距離歩行行事についてお尋ねします。
以下の質問に対して、空欄への記入、または、当てはまるものに○をつけてお答え下さい。

1. 貴校についてお知らせ下さい。

- a) 学校名 () 高等学校)
b) 創立年度 () 年)
※明治5年(1872年)学制発布以降の年号でお知らせください

2. 貴校で実施されている長距離歩行行事についてお知らせ下さい。

- a) 行事名称 ()
b) 開始年度 () 年から)
c) 今年度の実施日程 () 月) 日)
d) 歩行距離
男子() km)
女子() km)
e) 参加者
対象学年) 1年生 2年生 3年生 全学年
参加要件) 全員 希望者のみ その他()

3. 今後、詳細な調査の実施にご協力していただけますか？

はい いいえ



今後の調査にご協力いただける場合は下記にご記入ください。

(連絡先)

担当者名:

電話番号:

メールアドレス:

ご協力ありがとうございました。返信用封筒にてご返送下さい。

長距離歩行行事に関する全国調査ご協力のお願い

早春の候、貴校にはますますご清祥のことと存じ上げます。このたびは、高等学校の長距離歩行行事に関する質問紙調査へのご協力を頂きまして、誠にありがとうございました。おかげ様で、回収率も8割を超える結果となり、非常に貴重なデータを頂くことが出来ました。貴校のデータから、長距離歩行行事の普及につなげていければと考えております。

さて、今般、日本ウォーキング学会では、先日の質問紙にてご協力して頂けるとご回答頂いた高等学校を対象に、追加調査を行なうこととなりました。つきましては、本調査にご協力を賜ることが出来ると幸いです。ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、何卒ご高配のほど、よろしくお願いいたします。

記

5. 研究のねらい

先行研究にて、全国で長距離歩行行事を実施している高等学校が445校（全国で約9%）であることが明らかとなりました。しかし、その実施率は低下しており、前回の質問紙調査の中でも、中止したという返答を頂いた高等学校もありました。長距離歩行行事が減少傾向にある中で、行事の位置づけはどのようなものなのでしょうか。その検討を行うために、今回の第2次調査では、長距離歩行行事を実施している高等学校を対象に、**長距離歩行行事の魅力、行事の問題点に対する対処方法**を伺いその情報を整理して発信することによって、現在実施している高等学校が、今後も継続的に行事を実施していくことの手助けが出来るのではないかと考えました。また、他の体育行事と比較して、長距離歩行行事ならではの魅力を引き出すことも、今後の行事の存続、さらには発展に繋がっていきます。

そこで日本ウォーキング学会では、全国の高等学校で、教育プログラムの一環として実施されている長距離歩行行事（強歩大会、ウォーキング大会など）が、どのような魅力を持っているか、また運営上の問題点とその対処法を明らかにすることを目的とした調査を実施致します。

6. 本研究の構成

前回ご協力頂いた質問紙は最小限の項目に留めておりました。その結果を踏まえて、今回の調査では、さらに詳しい内容について第2次質問紙調査を実施します。同封した質問紙にご記入して頂ければ幸いです。

7. 調査期間

ご回答は、同封の返信用封筒にて、2008年5月21日（水）までにご投函下されれば幸いです。

8. 結果の報告について

ご協力いただきました結果につきましては、とりまとめ次第、報告書を送付いたします。

本件照会先

早稲田大学体力科学研究室内
日本ウォーキング学会 長距離歩行研究班
責任者・中村好男
〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15

資料

TEL& FAX : 04-2947-6829 (担当 木内)

長距離歩行行事に関する調査(追加調査)

【本調査の目的】

長距離歩行行事の魅力、長距離歩行行事の問題点に対する対処方法を伺いその情報を発信することで、現在長距離歩行行事を実施している高等学校が今後も継続的に実施していけるような手助けとなる資料の作成をすることを目的としています。

調査期間は、本調査紙が届いた日より平成 20 年 5 月 23 日(金)までとなっております。回収は、郵送となりますので平成 20 年 5 月 21 日(水)までにポストへ投函をお願いいたします。返送の際は、同封の返信用封筒に入れて下さい。

本調査の概要は、同封いたしました依頼状に記載してありますように、長距離歩行行事を今後も継続していくために、貴校のご回答が是非とも必要でございます。ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、ご協力よろしくお願いたします。

平成 20 年 5 月
早稲田大学スポーツ科学学術院
調査責任者 中村好男(早稲田大学教授)

問い合わせ・連絡先
早稲田大学スポーツ科学学術院 体力科学研究室 (担当：木内)
電話 04-2947-6829

記入上のお願い

- 1) 全ての設問にお答え下さい。
- 2) 回答はそれぞれの設問にある選択肢の中から選び、数字の上に○を記入して下さい。
- 3) 「その他」という回答になった場合、まず「その他」の番号の上に○を記入し、さらに具体的な事柄を()内に記入して下さい。
- 4) 選択肢がない設問の場合には、()内にご自由にご記入下さい。

問 1 貴校の学校名をお答えください。

() 高等学校

問 2 貴校での長距離歩行行事を実施する目的はどのようなものですか。当てはまるもの全てに○をつけてください(複数回答可)。

1. 体力向上
 2. 精神力向上
 3. 友人関係の構築
 4. 自然との触れ合い
 5. 運動習慣の確立
 6. 達成感を得るため
 7. 学校生活を明るく楽しいものにするため
 8. 他校との交流
 9. 新入生の歓迎
 10. その他()
-

問 3 2007年度、もしくは直近の長距離歩行行事の参加者数と完歩率はどの程度ですか。可能でしたら、男女別・学年別の完歩率もお答えください。

参加者数：()人

完歩率

全体：()%

性別：男子()% 女子()%

学年：1年生()% 2年生()% 3年生()%

問 4 実際に実施していく中で、貴校で実施されている長距離歩行行事から生徒が得られるもの、もしくは魅力はどのようなものですか。当てはまるもの全てに○をつけてください(複数回答可)。

1. 心身の健全な発達を促す
2. 集団での団結力を身につけられる
3. 運動から人間関係の構築を図れる
4. 生徒の体育授業の成績発表の場として活用できる
5. 運動に対する関心や意欲の向上につながる
6. 運動習慣が身につく
7. 活力のある生活を生み出す態度を育てる
8. その他()

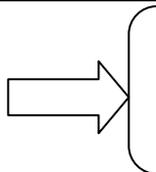
問5 貴校では長距離歩行行事以外では、どのような体育行事を行っていますか。当てはまるもの全てに○をつけてください(複数回答可)。

1. 運動会(または別名同等行事)
2. マラソン大会
3. 駅伝大会
4. 登山
5. その他()

問6 事前調査において、マラソン大会等を実施している高等学校は全国で1287校(25.4%)という結果が得られました。貴校において、マラソン大会ではなく長距離歩行行事を実施している理由があればお知らせ下さい。

問7 貴校で実施されている長距離歩行行事について、廃止、縮小、あるいは他行事への変更などの計画・検討がありますか。ある場合は、その内容と理由もご記入下さい。

1. はい
2. いいえ



問 8 長距離歩行行事を運営していくにあたって、困難を生じる点はございますか。下記のうち当てはまるもの全てに○をつけて下さい(複数回答可)。

1. 行事を実施する上での安全面での交通整備が難しい
 2. 地域住民の理解が足りない
 3. 運営協力者の人数の少ない
 4. 週5日制による体育行事削減への対応
 5. 生徒の行事に対する意欲が低下したこと
 6. 他の体育行事との兼ね合い
 7. 行事实施中の事故
 8. その他()
-

問 9 現在、長距離歩行行事を実施している高等学校で、問8で上げられたような問題点があることが検証されています。貴校ではそのような問題を、具体的にどのような内容でどのように対処・解決してきたか、または、もしもそのような事態に直面したらどのように対処していくことができるのかについて他校への参考となる情報があれば、下記にご記入下さい。

「1. 行事を実施する上での安全面での交通整備が難しい」について

内 容	対処・解決方法
〔 〕	〔 〕

「2. 地域住民の理解が足りない」について

内 容	対処・解決方法
〔 〕	〔 〕

「3. 運営協力者の人数の少なさ」について

内 容	対処・解決方法
〔 〕	〔 〕

「4. 週5日制による体育行事削減への対応」について

内 容	対処・解決方法
〔 〕	〔 〕

「5. 生徒の行事に対する意欲が低下したこと」について

内 容	対処・解決方法

「6. 他の体育行事との兼ね合い」について

内 容	対処・解決方法

「7. 行事实施中の事故」について

内 容	対処・解決方法

「8. その他」について

内 容	対処・解決方法

以下の問10・問11については実際に長距離歩行行事に参加している生徒からの目線でご記入下さい。

問10 実際に長距離歩行行事を歩いている生徒から見た、長距離歩行行事の魅力はどのようなものが考えられますか。当てはまるもの全てに○をつけてください(複数回答可)。

1. 体力が向上する
2. 精神力や忍耐力が向上する
3. 完歩したことで達成感が得られる
4. ストレスを解消できる
5. 日常では経験できない体験が得られる
6. 自然と触れあえる
7. 友達との交流が深められる
8. 他校の生徒と交流が得られる
9. みんなで1つのことに取り組むことができる
10. ウォーキングに興味が高まる
11. 運動習慣が身につく
12. その他()

問11 実際に長距離歩行行事を歩いている生徒から見た、長距離歩行行事の問題点はどのようなものが考えられますか。当てはまるもの全てに○をつけてください(複数回答可)。

1. 満足感や充実感を得られない
2. 行事に対する魅力を理解出来ない
3. ウォーキング自体に興味がない
4. 歩行距離が長い、短い
5. 気温が高い、低い
6. コースが歩きづらい
7. 体力差(性別や学年など)の考慮がない
8. その他()

長距離歩行行事に関する資料送付のお願い

先日行なった第1次調査では、長距離歩行の「しおり」や「行事要綱」を送付して頂いた高等学校がありました。私ども長距離歩行行事研究班では、そのような資料の重要性を理解し、その内容も踏まえて研究を進めていきたいと考えております。

そこで、貴校で長距離歩行行事についてのしおりや要綱がございまして、差支えがないようでしたら、ご送付頂けましたら幸いです。しおりや要綱について、以下の4つの中から1つお選び頂きますよう、お願い申し上げます。

なにとぞご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

1. 本調査紙と共に同封、送付いたします。
2. 別便にて送付いたします。(着払い)
3. 送付の方法について確認したいので連絡を希望します。
4. 送付する資料は特にありません。

最後に、本調査についてなにかご意見がございましたら、ご自由にお答え下さい。



質問項目は、これで終わりです。記入漏れがないか、もう一度ご確認下さい。
ご協力、誠にありがとうございました。